

防災の日／自宅の防災対策をチェックしよう

地震・台風・豪雨・竜巻…各地で自然災害が度々発生しています。しかし、災害による被害を予測、被害範囲を地図化している“ハザードマップ”をおよそ60%の人が活用したことがないというアンケート結果がでたり、住宅購入時から一度も建物のチェックをしていないため「耐震性に関わる構造の金物が外れていた」「側溝にゴミ詰まっていて豪雨で水が溢れ出た」「避難はしごの使い方がわからない」という事例が生じているなど、建っている立地にあったリスク対策や自宅の防災チェックはなかなかできていないのが現状。

万が一災害が発生したとき、少しでも被害を抑え、家族の安全を守るためにには、平常時のチェックと対策が不可欠です。そこで本日「防災の日」を自宅の備えを見直すきっかけとしてお役立ていただけるよう、業界初の個人向け不動産コンサルティング・ホームインスペクション(住宅診断)を提供している“不動産の達人 株式会社さくら事務所”(東京都渋谷区／代表:大西倫加)では、「住まいの防災チェックと対策ポイント」を解説、下記の通りまとめました。詳細の解説をご希望の方はお気軽にご連絡ください。



住まいの防災チェックと対策ポイント～抜粋～



防災チェック

立地の“リスク”をチェック

ハザードマップを確認する

自分の住んでいる地域の自然災害リスクをチェックしてみましょう ⇒ <http://disapotal.gsi.go.jp/index.html>
国土交通省のハザードマップポータルサイト / 洪水・津波・土砂災害・地震防災危険度・液状化 など

建物は“耐震性”と“不具合”をチェック

耐震性は確認申請の年を調べる！覚えて起きたい1981年と2000年

1981年に新耐震基準に、木造の建物は2000年にも改正されているのでチェックしてみましょう。旧耐震基準で建てられている場合は、耐震診断を行っているか、適切な補強を施しているか確認をしましょう。

避難器具のチェックや建物の不具合を点検

- マンション ⇒ ナルコニー避難ハッチなどの設備をチェック／タイルの剥離など共用部分の不具合をチェック
- 一戸建て ⇒ ひび割れ・雨漏り・水漏れなど、構造の耐久力に影響のある不具合をチェック

対策ポイント

室内の事故を防ぐ！自分でできる対策

ガラスに「飛散防止フィルム」を貼る

ガラスの飛散や落下を防ぎ、窓ガラスはもちろん食器棚などにも利用できます。

+αの効果として「遮熱性能」「紫外線防止性能」「防犯性能」があるものもあります。

雨樋・側溝を掃除

側溝のゴミや土砂をとり除き、雨水の排水がスムーズにできるようにおきましょう。



「もしも」のときの補償を見直す

住まいの保険～火災保険と地震保険を見直す

ハザードマップで自分の住む地域のリスクを参考に、被害に備え必要十分な補償を検討しましょう。

- 水災／台風や豪雨などで洪水・高潮・土砂崩れが起こり建物や家財が損害を受けた場合に補償
- 風災・ひょう災・雪災／台風で屋根が飛ばされた、ひょうで瓦が割れた、竜巻での損害などを補償 ほか

詳細はさくら事務所HPでもご紹介！⇒ <http://www.sakura-his.com/?p=3645>

■不動産の達人 株式会社さくら事務所■ (東京都渋谷区／代表取締役社長:大西倫加) <http://sakurajimusyo.com/>

株式会社さくら事務所は「人と不動産のより幸せな関係を追求し、豊かで美しい社会を次世代に手渡すこと」を理念として活動する、業界初の個人向け不動産コンサルティング会社です。1999年、不動産コンサルタント長嶋修が設立しました。

第三者性を堅持した住生活エージェント企業といった立場から、利害にとらわれない住宅診断(ホームインスペクション)や、不動産購入に関するさまざまなアドバイスを行なう「不動産の達人サービス」を提供、約2800組超の実績を持っています。

本件に関するお問い合わせは、お気軽に下記までご連絡ください。